

生物的防除部会

2021年度 第2回オンライン講演会のお知らせ

生物的防除部会 2021年度第2回講演会を下記の通り開催いたします。
会員の皆様はじめ多くの方がご参加くださいますようお願い致します。

記

日時 : 2021年11月9日(火) 13時00分~17時10分

オンライン講演会

使用アプリ: ZOOM

演題 1 「トマトにおける雑食性カスミカメムシ類を用いた生物的防除：海外の事例と日本での研究開発」

中野 亮平 氏 静岡県/宮崎大学 13:00 ~ 14:00

< 講演要旨 >

Dicyphini 属(カメムシ目:カスミカメムシ科)に属するいくつかの種は、様々な微小害虫に対する捕食性天敵である。これらの種は、動物質だけでなく植物質も餌として利用可能であり、このような雑食性の摂食様式は Zoophytophagy と呼ばれる。近年、地中海地方を中心に、タバコカスミカメや *Macrolophus pygmaeus* などの雑食性カスミカメがトマトの害虫管理に利用されており、これに関連した研究も盛んに行われている。日本では、土着で生息するタバコカスミカメの利用が施設果菜類で試みられている。静岡県では関係機関と連携し、2012年から施設トマトにおける本種の利用に関する研究開発に取り組んできた。本講演では、海外での研究事例と、これまで演者が関わった研究を紹介するとともに、今後の展望について述べる。

演題 2 「熊本県におけるタバコカスミカメの実用化」

浦野 知 氏 株式会社ペコIPMパイロット 14:00 ~ 15:00

< 講演要旨 >

2018年、(株)ペコIPMパイロットは、土着天敵のパッケージ生産に成功し、販売を開始した。この製品「くまもと NT(エヌティー)~天敵のたね®」は、タバコカスミカメ成幼虫600頭~800頭を紙カップに梱包したもので(天敵カップ)、特定防除資材として、熊本県内の生産者のみ購入することができる。現在、冬春なす、夏秋なす、夏秋トマトで実用化しており、有機栽培トマトにおいても、複数の導入成功事例がある。土着天敵を梱包した天敵カップの製造・販売は、持続可能な地域循環型システムであり、今後の発展を期待している。

< 休憩 >

15:00 ~ 15:10

演題3 「ビーフライ：医療分野で用いられるヒロズキンバエの農業利用」

西本 登志 氏 奈良県農業研究開発センター 15:10 ~ 16:10

< 講演要旨 >

ヒロズキンバエの幼虫が、わが国の医療分野で活躍している。マゴットセラピーと呼ばれ、主に傷口の治療に用いられる。私たちは、このハエの成虫がイチゴに訪花することに着目し、平成28年度より3年間、冬季寡日照地域のイチゴ栽培においてミツバチの補完ポリネーターとしてヒロズキンバエ（商品名：ビーフライ）を有効に利用する方法を確立すべく試験研究を行った（革新的技術開発・緊急展開事業、地域戦略プロジェクト）。結果、適切な蛹投入数・頻度、利用に適した品種、農薬や施設内環境の影響、導入費用などを明らかにし、「ビーフライ利用マニュアル」を完成させた。ここでは、医療分野におけるヒロズキンバエの利用状況と私たちの研究成果の概要を紹介する。

演題4 「欧米とブラジルのBCBSについて」

アート・マーレル氏 オランダ コパート社 16:10 ~ 17:10
通訳・解説 和田 哲夫 氏 生物的防除部会 副会長

< 講演要旨 >

生物農薬市場の拡大は進んでいるが、それ以上に拡大のスピードが大きいのがバイオスティミュラントの市場である。ヨーロッパでの新肥料法により、バイオスティミュラントがカバーされることになりEUでの更なる拡大が進みそうである。また南米、とくにブラジルにおける生物農薬とバイオスティミュラントなどの状況について報告する。

< オンライン講演会参加 申し込み要領 >

講演会への参加をご希望される方は、以下の URL より申込フォームにアクセスし、お名前とメールアドレスをご入力の上送信してください。開催日の前日までに Zoom の接続情報をメールでお知らせいたします。

<https://forms.gle/JnvKomMovyRnoF6i8>